

巨大旅客機の重量を支え、安全を守る

道路だけではない。羽田空港拡張にも活躍する大成ロテック

東京の空の玄関口、羽田空港。1日に20万人もの人々が利用されると言われます。現在、2010年の完成を目指して、滑走路、国際線ターミナル、新管制塔などの拡張工事が着々と進んでいます。大成ロテックの技術は、こんなところでも活躍しています。



当社の担当している新しい国際線地区エプロン建設現場。

羽田空港に4本目の滑走路(D滑走路)を新設し、年間発着能力を約41万回に増強(現在は約30万回)する大規模なプロジェクトが進行しています。数年先を見据えた国内線需要とともに、新たな国際定期便の就航に必要な機能を整備するためのものです。

大成ロテックは、巨大旅客機の重量を支え、安全な運航の基礎となる広大なエプロン(駐機場)と、新設滑走路の舗装を担当しています。

当社ならではの高い舗装技術が、安全な空の旅を支える縁の下の力持ちとなっています。

巨大なジェット旅客機の重量を支えるエプロンの舗装断面図。コンクリート舗装だけで47cm、全体では190cm以上の厚みをもつ。



目地入れ作業

コンクリートに目地を入れていく。人の手による入念な作業も必要とされます。



コンクリート養生

流し込んだコンクリートの上に養生マットを敷き、散水して乾燥を防ぎ、時間をかけて養生を行います。養生とは、コンクリートが硬化するまでの間に適度の温度と湿度を保ち、十分な強度を確保する大切な工程です。



スリップフォームによるコンクリート施工状況

コンクリートの供給から敷きならし、締固め、成型、表面仕上げなどを完全機械化したスリップフォーム方式により、1時間あたり120立米ものコンクリートを打ち込むことができます。

これにより、省力化やコストダウンを実現し、ことに空港など層の厚い大規模コンクリート舗装で威力を発揮しています。



コンクリート舗装完了

遙か先まで延々と続くエプロン建設現場。規模の大きさがよく分かります。

Column 広大な施工現場に圧倒されました

大成ロテックは、道路だけでなくほかにも様々な工事に参加しています。

CSR報告書制作チームは、羽田空港の滑走路・エプロン新設工事の現場を訪れ、現場で密着取材しました。これほど大規模な工事もやっているんだ、と正直驚くばかりでした。



羽田空港の施工現場で、担当者から話を聞くCSR報告書制作チーム。



入社して最初の現場がいきなり羽田の巨大プロジェクトだったという多野工事担当。やりがいとともに大きな責任を感じている毎日だと語る。